

IV-90 「桜の名所」の特性に関する考察

東京電力(株) 正員 高浜 収
筑波大学 正員 黒川 洸
筑波大学 正員 石田 東生

1. はじめに

上野公園の桜、吉野山の桜など花見の名所として有名な場所は、全国で数百カ所ある。これらの地域では季節的に限られたものかもしれないが、桜の木が人を集める魅力となっていると思われる。しかし、桜の木があっても名所となっていない所もあり、どのような要素が組み合わされると名所と言われるのかがわかっていない。近年、観光地づくりや地域活性化の手法の一つとして「桜の名所」を計画的につくろうという動きもあり、これを知することは重要なことである。そこで本研究においては、「桜の名所」を計画してつくることの可能性について基礎的検討を行なうことを目的とする。

2. 研究のフローと作業仮説

本研究では2つの分析を行なった。1つ目は『桜の名所は計画してできる可能性があるか』を分析するものである。具体的に次の3点から検討する。

- 1) 染井吉野の増加・・・①新しい品種である、②20年で成木し60年で老衰する、③豪華絢爛である
2) 短期間での成立可能性
3) 場所を選ばない・・・①歴史性へ依存しない、②何にでもよく似合う、③市街地、観光地でなくてもよい

2つ目は『桜の名所はパターン分類できるか』に関する分析であり、もし分類できるならば今後「桜の名所」を計画してつくるための基礎として役立つものであると考えられる。上記2つの分析を行なうために、表1に示す要因の整理・抽出をした。抽出にあたっては、特に木の植え方・水辺の有無・交通の利便性などの計画的に制御できる要因に注目しながら抽出を行なった。

表1 特性把握のための要因

	社会的要因	自然的要因
アンケート より調 査 把 握	・桜の木が植えられた時期 ・名所として認知された時期 ・歴史的由緒があるか ・花見客が宴会をしたり、 弁当を食べたりするか ・桜祭りが行なわれているか ・おおよその花見客	・周辺の風景 ・名所の規模一本数、面積 ・桜の木の広がり方 ・桜の木の並び方 ・ソメイヨシノが主であるか ・桜が固まって植えられているか ・地形―平地か傾斜地か ・水際に植えられているか―種類
リ文 把 握	・立地―市街地かどうか ・交通便 ・観光地かどうか	・桜が植えられている場所 ―公園、城、寺社、河川、並木道等

3. 「桜の名所」の現況調査

「桜の名所」には厳密な定義がないため、本研究では参考文献1)～4)に重複して掲載されているものを「桜の名所」と定義する。

「桜の名所」の中から200カ所を抽出し、その管轄部署にアンケート調査を行なった。調査形式は郵送調査法で、配布先は「桜の名所」を管理している地方公共団体とした。有効回収率は175カ所、87.5%であった。またアンケート調査に並行して200カ所の「桜の名所」に関する立地、交通便、観光地か否か、歴史性などについて文献調査した。

4. 「桜の名所」の計画可能性の基礎的検討

「桜の名所」の計画可能性は次の4点から示される。

- ①桜の木の植えられた時期は昭和時代が最も多く、全体の65.2%を占める。(図1)
②「桜の名所」の41.1%では特に歴史性がないとなっている。
③「桜の名所」の64.6%では染井吉野が主に植えられている。(図2)
④桜の木は様々なものに似合う。(表2)

また実際に「桜の名所」は昭和時代に入ってから計画してつくられている可能性が高いと考えられる。理由としては以下の5点である。

- ①成長が早くかつ絢爛豪華な装いを特徴とする染井吉野が主に植えられている割合は、昭和時代に植えられたものの69.3%を占めている。
②『歴史性特になし』の割合は、昭和時代に植えられたものの50.0%を占めている。(図3)

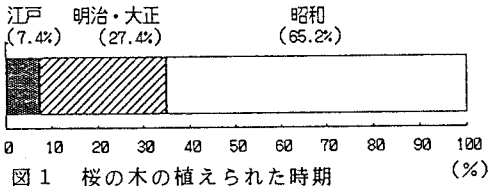


図1 桜の木の植えられた時期 (%)

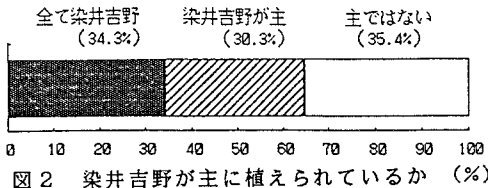


図2 染井吉野が主に植えられているか (%)

- ③『桜の木のみで固まって植えられている』と回答した割合は、昭和時代に「桜の名所」として認知されたもののうち59.5%を占めている。（図4）
- ④公園・河川・並木道という人工的につくり易い場所が名所になっている割合は昭和時代に植えられているケースに多い。
- ⑤D I D地区外・観光地でない場所でも昭和時代に入って名所と呼ばれるケースが増えてきている。（図5, 6）

5. 「桜の名所」の特性把握

「桜の名所」を構成している要因の違いにより、対象とする175の地域がどの様に分類できるかを数量化Ⅲ類により検討した。その結果は図7に示す通りであり、相関比は2軸の累積で0.31と低かった。図7に示す通り『植えられている場所』という要因に着目すると城・川については比較的まとまりがあるが、公園に関しては分散している。本研究では、取り込む要因や時代区分別分析など工夫をしてみたが相関比は上がらなかった。以上数量化Ⅲ類の分析からは、「桜の名所」には非常に様々なパターンがあり、分類することは難しいと考えられる。

6. 結論

本研究の結論として次の2点が示された。

- ①「桜の名所」は計画してつくれる可能性があり、また計画的につくられた可能性が高いと考えられる「桜の名所」は昭和時代に増えた。
- ②「桜の名所」のパターン分類を試みたが様々なパターンがあり、分類においてはかなりの工夫が必要であることがわかった。

今後の課題として、第1に設計の計画意図に着目した分析からパターンを抽出するという方法を試みる。第2に桜が植えてあるものの「桜の名所」となっていないところとの比較をすること。第3に計画可能性の分析では20～30年という時代区分により分析するべきこと、があげられる。また第4に研究を開始した時点の関係から、桜が満開の時期に「桜の名所」に行くことができなかったため主観的な楽しみ・印象など、アンケート調査や文献調査では得られない部分があったのではないかと考えられる。

参考文献

- 1) (社)日本観光協会(1989)：全国観光情報ファイル
2) ラック計画研究所(1978)：特集、花による観光地づくり、月刊観光1978年7月号PP3-32
3) 石井ひとし他(1989)：春一番さくらの旅、二見書房
4) 栗田勇(1986)：これだけは見ておきたい桜、新潮社
5) 樋口忠彦(1975)：景観の構造、技報堂

表2 「桜の名所」に似合う周辺の風景（カ所）

山	水辺	城	学校	芝	寺社	展望台	傾	鉄道	他	なし
90	72	38	8	23	42	19	37	6	45	6

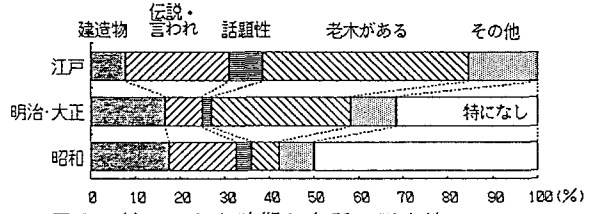


図3 植えられた時期と名所の歴史性

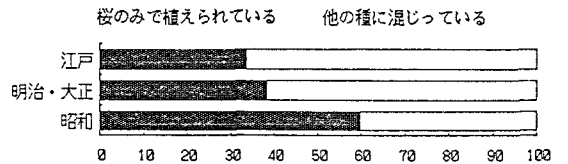


図4 名所の認知時期と植えられ方（％）

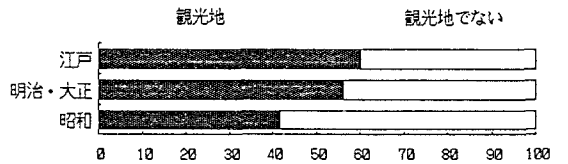


図5 名所の認知時期と観光地か（％）

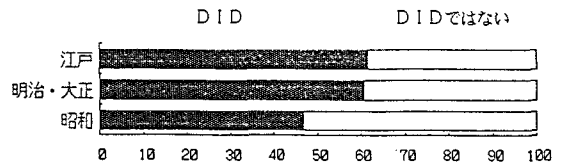


図6 植えられた時期とD I D地区か（％）

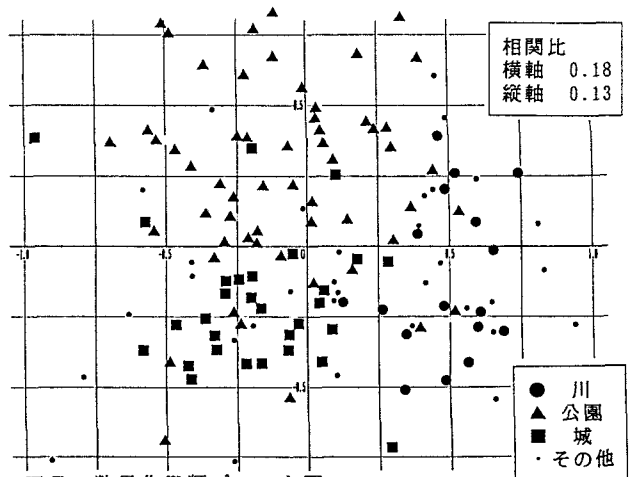


図7 数量化Ⅲ類プロット図